

北海道開発計画調査等説明会 質疑応答 (1/6)

① 生産空間を支える物流インフラ維持に向けた道の駅の利活用に関する調査分析等業務

Q 共同輸送の「共同」とは、誰と誰が共同することをイメージしているのですか

A 本来は複数の物流事業者が各々の荷物を別々に目的地へ輸送しているところを、費用負担や荷物責任等について取り決めのうえ、単独の物流事業者が代表して荷物を輸送するイメージになります。このことにより、トラック1台あたりの積載率が高まり、効率的な輸送が実現すると考えています。

Q どれ位の貨物量があれば共同配送において採算性が取れるようになるのでしょうか

A 輸送手段により異なるので、どれほどの量であれば採算が合うとは一概には言えませんが、例えば、稚内～名寄間において、カゴ車1台分の常温の荷物を輸送した場合、100サイズの段ボールを約10個確保できれば採算性が合うと考えられます（資料24頁に記載）。また、今後共同輸送の取組が広まり、安定的に相当量の荷物を確保できるようになれば、運送費も次第に下がっていくものと考えています。

Q 道の駅の立ち寄り時間が平均10分未満と速くしないといけない理由は

A 青果物の輸送は速達性が重要であること、また、今後ドライバーの運行規制が厳格化されることから（2日平均の連続運転時間が9時間以内等、資料1頁に記載）、できるだけ道の駅での立ち寄り時間を早め、輸送時間を短縮することが求められています。

Q 表題は「公的施設の長期利用可能性の検討」となっておりますが、長期利用の可能性はあるのでしょうか。また、道の駅利用にも課題があるようですが、なぜ道の駅に着目したのでしょうか

A 道の駅を物流用途で活用することや荷物の一時保管の可否、賠償責任の所在等の関連する法には抵触しておらず（資料31～34頁に記載）、利用可能性は高いと考えています。

道の駅に着目した理由としては、物流幹線となる国道沿いに道の駅が配置されていることや、物流事業者の厳しい実情を考慮した場合、既存の道の駅をストックポイントとして活用することで、新たな物流施設を作成せずとも効率的な輸送が実現できると考えたためです。

北海道開発計画調査等説明会 質疑応答 (2/6)

② 北方領土隣接地域等におけるドライブ観光促進方策検討調査

Q 北海道開発局農業水産部（釧路開発建設部）では別海町を中心に「国営環境保全型かんがい排水事業」を推進しておりますが、事業の成果として春・秋等の家畜糞尿農地還元時に伴う「臭気」もかなり改善されていると思いません。海外からの来訪者からのアンケート調査回答（その他欄）などに「ドライブ時に感じた酪農地帯での景観・臭気等」に関する意見はなかったでしょうか

A 当初現地に来られた外国人へのアンケート調査を予定しておりましたが、調査期間中に新型コロナウイルスの影響により渡航が制限されましたので、過去に来道経験のある外国人へオンラインによるヒアリング調査を行いました。

ヒアリング調査の中では、「ドライブ時に感じた酪農地帯での景観・臭気等」に関するご意見について、

- ・ミルクロード（中標津町）で酪農家の日常及び朝の牧場散歩を体験したい。（台湾）
- ・根室の酪農に興味があり、具体的な地名は覚えていないが、チーズを食べてみたい。（台湾）
- ・ムツ牧場（中標津町）で乗馬体験がしたい。（香港）
- ・中標津町の牛乳関連商品が多く、牛乳の生産量は北海道で2番目で、そこで新鮮な牛乳を飲みたい。（香港）
- ・別海町の牧場、酪農家へ訪問したい。（米国）
- ・北海道のミルクが一番良いので、酪農見学をしてみたい。（米国）
- ・別海町はとても緑豊かで美しい。（米国）

など、酪農に関する好意的なご意見がありました。

Q DriveHokkaido のアプリは、永続的に運営されるのですか？その運営費はどのように確保されているのですか

A 株式会社ナビタイムジャパンと北海道開発局とはインバウンド観光による北海道の地域活性化に貢献することを目的に協働事業の実施に関する協定を締結しています。この協定にもとづき、株式会社ナビタイムジャパンが継続的に運営を行っていく予定です。

北海道開発計画調査等説明会 質疑応答 (3/6)

③ 日高地域物流実態調査

Q 課題が見つまっているようですが、その課題の解決に向けて、本調査結果の活用などについて来年度以降の取組予定があれば教えてください

A 次年度以降の調査等は現時点で未定ですが、この調査報告をきっかけに、地域において物流に関する議論が活発になればと思います。

Q 課題解決に必要とされるキーマンは、どのような職種の方が想定されるでしょうか。自治体やトラック協会でしょうか

A 自治体もトラック協会も課題解決には重要と考えますが、個人的にはそれよりも地域の民間企業の方々と感じているところです。地域活性化のために精力的な活動をしている方々もキーマンとして良いのではないだろうかと思います。

Q 本州の半島部の取組を紹介して欲しい。(要望)

A 本調査でも「突端部は物流が難しい」とお話しさせていただきました。半島部でもそういったことが考えられます。参考にさせていただきます

北海道開発計画調査等説明会 質疑応答 (4/6)

④ 農林水産業や食関連事業に係る立地企業等と地元とのマッチング成功事例等調査

Q いちごは今は旬なのですか

A はい。生産しているイチゴは「よつぼし」という品種で、この品種は四季なりといって年間何回か収穫できますが、ちょうど苗を植えた後の一番なりの時期です。果皮が柔らかく、甘いのが特徴の品種ですが、この時期のものは更に大きくて食べ応えもあります。是非おこしてください。

Q この事例等調査はほかには実施していないのですか

A 今年度はコロナ禍もあって、現時点では当別町での調査しか実施できていませんが、調査は今後も継続して実施していく予定です。

Q いちごゼリーは買えるのですか

A かもけいアグリ株式会社のFacebookを見たところ、もう販売されているようです。農園で購入できるそうです。

Q 加工も、かもけいアグリがおこなっているのですか

A いいえ、食品製造事業者に委託しています。

Q 町内の企業ですか

A いちごのゼリーの製造は町内の企業ではありませんが、先ほどの説明の中で御紹介したように、町内の事業者とコラボしての製品にも取組中とのことです。

北海道開発計画調査等説明会 質疑応答 (5/6)

⑤ 北海道産農産物の付加価値向上に向けた「新品種」PRの取組

Q きたロツソは一般に販売されているのですか

A はい。オンラインショップやJA、道の駅、空港等で販売しています。

北海道開発計画調査等説明会 質疑応答 (6/6)

⑥ 農畜産物及び加工品の移出実態調査

Q 農林水産省の統計との違いや、この調査の特徴はどの辺りになるのでしょうか

A 農林水産省が公表する農林水産統計は、統計法に基づく主務大臣の承認を受けて実施した基幹統計調査によるもので、農林水産省が定めた調査・集計方法に基づいて行われております。一例として、作物統計調査は、標本調査や現地見積もり、関係機関からの情報等を基に、都道府県毎の推計値が求められています。

本調査の数値(重量や本数)は、例えば「ある加工食品」であれば、生産量や販売量が一定程度ある企業をピックアップして調査を依頼し、回答いただいた数値を集計していますので、農林水産統計のような北海道全体を示す量的な「全て」ではありません。「農作物」においても移出される量的な「全て」ではありませんが、「どの月が多いのか」とか「どの地域への移出が多いのか」といった道産品の移出の傾向を知ることができることが、この調査の特徴だと思います。

Q 農畜産物、加工食品の流通に関しては「量」での調査が従来から主体となっておりますが、流通に携わる方々の人員数を基に「産業連関」などの活用による農畜産物流通従事者労働所得？が北海道経済にどの程度寄与しているかを今後調べることはできないでしょうか

A 本調査におきましては、一定程度の「流通量」を調べておりますが、北海道全体の流通量ではありません。また、流通に携わる方々の人員数などは調査対象としておりません。

説明会でご説明したとおり、この調査は流通を担っているJAや関係企業等のご担当の皆さまのご協力により実施しておりますので、調査項目の追加等、新たなご負担をお願いするような取り組みについては考えておりませんが、ご質問いただいた視点につきましては、今後取り組む調査の参考とさせていただきます。

Q 昭和50年代に輸送機関がJRからトラック、フェリーに移った理由は分かっているのでしょうか

A 概観としまして、1964(S39)年の東京オリンピック以降、日本のモータリゼーションが加速度的に進み、大都市圏を起点に幹線道路整備が進みました。1972(S47)年には、「日本列島を高速道路・新幹線・本州四国連絡橋などの高速交通網で結び・・・」で有名な「日本列島改造論」も刊行され、全国の道路整備が推進され、全ての貨物輸送の中心は鉄道からトラックへシフ

トしていきました。

また、苫小牧港は1972（S47）年の4月にカーフェリーが就航（太平洋航路）し、北海道から本州向けのトラック・フェリーの利便性が大きく向上しました。

北海道産農畜産物及び加工食品の移出においても、こういった流れと同じく、1972（S47）年頃から1978（S57）年頃へのシフト変化があったと推察されます。

Q 昭和54年だけでなく、ホームページで公開している5年分より以前のデータを入手することは可能でしょうか

A 可能です。昭和54年度版（初回）以降の各年度版、必要な部分をお声かけいただければ、PDFデータで提供させていただきます。